

平成 13 年度・事業報告書

自 平成13年4月 1日

至 平成14年3月31日

財団法人 ハイライフ研究所

平成13年度の事業概況

平成13年3月23日の第16回理事会及び評議員会で承認された「平成13年度事業計画」に基づき研究活動を推進致しました。

一般研究は、①21世紀のハイライフに関する研究として「食のライフスタイル研究」「少子化時代における日本人の結婚観に関する研究」②ハイライフモデル調査の展開として「団塊世代のライフスタイルの一考察 50～54歳の肖像」「大都市のシーンについての調査・研究」の4プロジェクトで、其々の研究を行ないました。

当財団の広報活動の一環として計画しましたホームページに関しては、平成11年3月17日に開設され、研究成果の発表の場、広報活動の場としてコンテンツの数を順次増やしております。現在迄に、16,000以上のヒット数を数えております。

広報誌「はいらいふ研究」は5号として5年ぶりに復刊いたしました。

又、ハイライフセミナーとして、シンポジウム「エネルギー新時代へ向けて“暮らしが変わる、地域がかわる”」、講演会「団塊世代の女性、データで見る私達の履歴書」「DINKS から共立夫婦へ」を開催し、それぞれ好評をいただきました。

受託研究は、①出版「ブロードバンド生活読本」②「省エネルギーセンターへの研究員派遣」の業務委託をうけ其々受託いたしました。

①に関しましては、3月末に日科技連出版社より研究成果を出版いたしました。

②に関しましては、4月より2月まで研究員を派遣いたしました。

平成13年度の研究成果は、以下の通りホームページへの掲載、研究報告書として発行(含む印刷中)及び出版致します。

- *「座会 生活を豊かにする情報デザイン」(広報誌、H・P)
- *「シンポジウム エネルギー新時代へ向けて」(報告書、H・P準備中)
- *「講演会 団塊世代の女性、データで見る私達の履歴書」(報告書)
- *「大都市のシーンに関する調査・研究(中間報告)」(報告書印刷中)
- *「食のライフスタイル研究(中間報告)」(報告書印刷中)
- *「少子化時代における日本人の結婚観」(報告書、H・P準備中)
- *「団塊世代と戦前・戦中派世代 “50～54歳”の肖像」(報告書、H・P)
- *「ブロードバンド生活読本」(日科技連出版社より3月出版)

以上が平成13年度の事業概況です。

1、一般研究

①21世紀のハイライフに関する研究

研究テーマ 1「食のライフスタイル研究」

～消費者視点からの食のライフスタイル変化の
意識・行動変化の分析(中間報告)～

本研究は、平成8年度迄継続研究した「日本の食文化にみるライフスタイル」の続編として、「21世紀の食のライフスタイル像」を把握すべく、3年計画の2年度として実施した。

初年度は、生活者を取り巻く食の環境変化の中にあつて、食の送り手・作り手である食品産業に対する取材を通して、メーカーが食のライフスタイル変化の仮説・キーワードをどのように捉えているかを探るとともに、ブランドを通してこれまでの食のライフスタイルの変化を整理し、「ブランドを通して見た食ライフスタイル変化」と題し、報告書を取りまとめた。

2年度は消費者視点からの食ライフスタイルの意識・行動変化の分析を中心に一部生活者調査を行い、3年目の消費者調査結果をもとに取りまとめる、今後の食のライフスタイルの方向性を示唆する仮説抽出の為の中間報告である。

〈中間報告の概要〉

1. 2001年度研究の位置づけ

2. 2001年度の研究課題

・消費者視点からの意識・行動変化の分析にむけた理論補強

・消費者調査に向けた予備的・補完的サーベイの実施

3. 来年度に向けて:研究の方向性と消費者調査案

1. 今後の研究課題

資料編:若者の食ライフスタイル・インサイト

企画推進:乳井瑞代(学習院大学大学院経営学研究科)

研究協力:青木幸弘(学習院大学経済学部教授)

福與宜治((株)読売広告社STPディビジョン)

吉田康男(// メディアプランニング)

ハイライフ研究所 小田輝夫

小坂井達也

高木麻紀子

研究テーマ 2「少子化時代の結婚観に関する研究」

平成10年度に実施した「少子化に伴う家族のライフスタイル」の研究からの派生テーマとして、少子化が進むにつれ、若者を中心とした男女がどのような結婚形態を選択し、いわゆる長男長女時代にどのような結婚観をもっているのかを調査・研究した。

少子高齢化のなか、財産の相続、両親の介護、扶養などの家族問題、晩婚化、できちゃった婚など少子化時代の結婚観は将来選択するライフスタイルにも深く関係している。

〈報告書の目次〉

1. 研究目的
2. 結婚観の変遷
3. 次世代は結婚をどう見るか
4. 少子化時代の結婚観から見た新たなライフスタイル
5. 少子化時代のネオ結婚観に伴う新しいサービス産業
6. 座談会 — 結婚観の今後の展望

企画推進 長谷川文雄(東北芸術工科大学副学長、ハイレイフ研究所評議員)

研究協力 犬田 充(東海大学名誉教授)

三上 俊治(東洋大学社会学部教授)

松村 茂(東北芸術工科大学デザイン工学部助教授)

小山田裕彦(東北芸術工科大学研究員)

事務局 小田輝夫、小坂井達也(ハイレイフ研究所)

②ハイライフモデル調査の展開

研究テーマ 1 「団塊世代のライフスタイル」の一考察(継続研究)

団塊世代と戦前・戦中派世代「50～54歳」の肖像

我国の消費、ライフスタイルを常にリードしてきた団塊の世代も、全員が50歳をこえた。男女合わせて1100万の「人口の塊」。その団塊世代の行方は、これからも後に続く世代のライフスタイルに影響を与え続けるであろう。

当研究所では、これら「団塊の世代」のライフスタイルに着目し、継続テーマとして、研究している。(「団塊家族」の出版・1999・12、「ネオ50'S世代の研究」2000・3、「団塊の女性“私達”の履歴書」2001・3)に引き続き、今回は、『「50～54歳」の肖像』と題し前の世代(戦前・戦中派)とどこがどう違うのか、「ニューエルダー」VS「オールドエルダー」のデータを基にそのライフスタイルの比較検証を試みた。

研究レポートの概要

◆はじめに 団塊世代概観

◆「ニューエルダー」VS「オールドエルダー」 データ比較

アプローチⅠ 「家庭環境」の差異—人口、配偶関係、世帯・家族

アプローチⅡ 「職業・労働環境」の差異—就業、職業、地位、賃金など

アプローチⅢ 「消費と貯蓄、家計環境」の差異—消費支出、貯蓄、資産

アプローチⅣ 「所有消費財環境」の差異—耐久消費財普及率など

アプローチⅤ 「新製品・サービス」への態度・対応—情報機器、旅行、車他

アプローチⅥ 「生活意識・価値観」の差異

総括 Ⅶ ニューエルダーとオールドエルダーとの相違点・総括

◆まとめ ニューエルダーマーケット論 団塊ならではのパワーを発揮するのか？

企画推進:遠藤敏明(読売広告社都市生活研究ディビジョン、
ハイライフ研究所研究員)

研究体制:立澤芳男(マーケット・プレイス・オフィス)

植野 勸(コミュニケーションデザインインステテュート)

小田輝夫、小坂井達也、高木麻紀子(ハイライフ研究所)

研究テーマ 2「大都市のシーンに関する研究」 (中間報告)

東京都心の活性化に向けて、都市を構成する様々な体験シーンと利用者のライフスタイルとの関連から、これら体験を供給している公共の文化サービスや民間サービスのあり方について知見を得ることを目的に2年にわたり研究する。

今年度は、全体の研究フレームを構築するための事前調査と位置づけ、文献資料をもとに中間報告としてとりまとめた。

都市は大別すると、居住空間、労働空間、体験消費空間の3種に分けられる。

本年報告では、都市空間の再編と社会的環境の変化とを連結するのが都市の様々なシーンであるとの前提にたち、巨視的観点から、東京という都市の骨格と居住、労働、消費空間の変遷過程についての検討を行い、近未来におけるそれぞれの空間の再編のシナリオを提起した。

〈中間報告〉

I. 都市のシーン

1. 都市空間の再編

- (1) グローバル化と都市 (2) 労働空間の再編 (3) 居住空間の再編
- (4) 体験(消費)空間の再編

2. 社会環境の変化

- (1) 雇用システムの変化 (2) 消費行動の変化 (3) 個人化

3. 都市のシーンの役割

- (1) 嗜好の学習機関 (2) シーンの美学化

II. 東京のシーンの変遷

1. シーンの変遷

- (1) 江戸～明治 (2) 大正時代 (3) 戦後 (4) 高度経済成長期以降

2. 東京の繁華街

- (1) 繁華街 (2) 繁華街の変貌

3. 都心生活の変遷

- (1) 変貌する東京の都市構造 (2) 労働空間の変化 (3) 居住空間の変化
- (4) プレイス(場所)

III. 体験消費のシーン

1. 消費構造の変化

- (1) 消費トレンドの変遷 (2) 流行現象 (3) ストリートとファッション

2. 体験消費のシーン

- (1) 店舗の変遷 (2) 外食の変遷 (3) アミューズメント (4) 観劇他
- (5) 文化・スポーツイベント (6) 健康・美容

IV. まとめと課題

1. 都市のシーンについて
2. 体験消費のシーン

企画推進: 中田裕久((株)オオバ 環境開発研究所主任研究員)

研究協力: 仙洞田伸一((株)読売広告社都市生活研究ディビジョンDM
ハイライフ研究所主任研究員)

菊池しのぶ((株)創造開発研究所、ハイライフ研究所研究員)

小田輝夫、小坂井達也、高木麻紀子(ハイライフ研究所)

③ハイライフ研究に関する普及活動

「ホームページの充実」

平成11年3月17日に当財団の広報活動及び研究発表の場として立ち上げたホームページは、現在までに16,000以上のヒット数があり、研究報告書への問合せや報告書の送付依頼が増えている。

基本的にすべての情報公開を前提として、研究報告書、シンポジウム、講演会の内容を全文掲載しており、現在約30冊の報告書を掲載済みである。今後コンテンツを更に充実させる。(URL: <http://www.hilife.or.jp>)

「広報誌 はいらいふ研究第5号 の発行」

5年ぶりに広報誌「はいらいふ研究」を第5号として発行。特集として『情報「生活文化」』を取り上げ、座会「生活を豊かにする情報デザイン」他を組んだ。

当研究所の自主編集として、広報及びPR活動の一環として、今後も年1回の発行を継続していく。

④ハイライフ研究に関する催しの開催

「ハイライフセミナーの開催」

1)第6回ハイライフセミナー

エネルギー新時代へむけて「暮らしが変わる、地域が変わる」

- ・実施日 平成14年1月23日(水)
- ・会場 銀座コムホール(読売広告社本館9階)
- ・主催 (財)ハイライフ研究所
- ・協力 BASE Japan設立準備委員会
(財)地球・人間環境フォーラム、岩波書店

第Ⅰ部 基調講演 「エネルギー新時代への提言：暮らしが変わる、
地域が変わる」

スピーカー 赤池 学 (ユニバーサルデザイン総合研究所所長)

第Ⅱ部 パネルディスカッション

「新エネルギーの利用で社会、生活はいかに変わるか」

パネラー 平野 喬 ((財)地球・人間環境フォーラム専務理事)

藤井石根(明治大学理工学部機械工学科教授)

竹林征雄((株)荏原製作所理事)

今泉みね子(環境ジャーナリスト)

《ヨーロッパからの特別報告》

1. 「ソーラー地球経済をめぐって～今なぜ自然エネルギーなのか～」

スピーカー 今泉みね子

2. 「自然エネルギーとヨーロッパの取り組み」

スピーカー ヴァージニア・S・オブライエン

(BASEスイス総事務局マーケティングディレクター)

- ・内 容 深刻化する地球温暖化問題、化石燃料の枯渇など、エネルギーを取り巻く環境が激変し、我国においても、エネルギーの自給率を高め、より持続可能なエネルギー利用への転換が急務である。開発が進む自然エネルギーや省エネルギー技術が生活や経済にいかなるメリットをもたらすかに関し、提言・報告を行った。

2) 第7回ハイライフセミナー

「団塊世代の女性、データで見る「私たち」の履歴書」

・実施日 平成14年3月12日(火)

・会 場 銀座コムホール(読売広告社本社ビル9階)

・主 催 (財)ハイライフ研究所

・講 演 立澤芳男(マーケット・プレイス・オフィス代表)

・内 容 昨年度の研究「団塊世代の女性、「私達」の履歴書」をデータを中心に彼女達の履歴を追った。

3) 講演会 「共立夫婦」～DINKSから共立夫婦へ～

・実施日 平成13年9月5日(水)

・会 場 銀座コムホール(読売広告社本社ビル9階)

・主 催 (財)ハイライフ研究所

・講 演 高橋 誠((株)創造開発研究所所長)

内 容 共働きで二人暮らしの「共立夫婦」の価値観、生活スタイル、消費行動とその影響力を、昨年出版した「共立夫婦」をもとに解説。

4)ハイライフ座会「生活を豊かにする情報デザイン」

- ・実施日 平成13年12月20日
- ・場 所 読売広告社アネックス1 5階会議室
- ・企画推進 長谷川文雄(東北芸術工科大学副学長
ハイライフ研究所評議員)
- ・出席者 吉井博明(東京経済大学コミュニケーション学部教授)
清原慶子(東京工科大学メディア学部教授、学部長)
松村 茂(東北芸術工科大学情報デザイン学科助教授)

2、受託研究

①生活文化に関する受託研究(出版事業)

研究テーマ 「ブロードバンド生活読本」

2002年3月 日科技連出版社

内容 ブロードバンドになることによって、日常の生活を大きく変化させる。私達の生活にどのような影響を与え、またどう受け入れ使いこなすのか。ブロードバンドによって、私達の行動や意識はどう変化するのか。生活者に最適なブロードバンドの楽しみ方を提起。

編集体制は、以下の通りです。

ブロードバンド生活研究プロジェクト

プロジェクトリーダー: 杉本浩二((株)読売広告社mdiラボ)

メンバー: 薄木 治 (")

小坂井達也(ハイライフ研究所 主任研究員)

菊池しのぶ(ハイライフ研究所研究員)

高木麻紀子(")

アドバイザー: 高橋 誠 (創造開発研究所所長)

小田輝夫(ハイライフ研究所)

②(財)省エネルギーセンターよりの受託事業

省エネセンターが実施する、環境教育及び省エネ住宅に関する啓蒙・教育活動に関する企画推進のための研究員の派遣及び研究活動の推進ほか。

企画推進: 市川昭彦(ハイライフ研究所主任研究員)